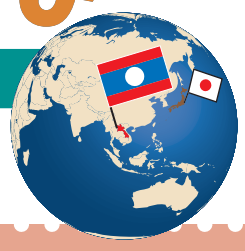
地球ひろば

共につくる　ぼくらの未来

協力：ＪＩＣＡ（ジャイカ）
https://www.jica.go.jp/hiroba/

ラオス①



今週のリポーター

■平良晃洋さん……福岡市立南当仁小学校の先生。ラオスで、算数と英語の授業をよりよくするために、現地の先生向けにワークショップやモデル授業をしています。ＪＩＣＡの現職教員特別参加制度で2016年６月から18年３月まで青年海外協力隊として派遣。ラオス北東部のシェンクワン県カンカイ村の教員養成校に所属。

フラッシュカードを使った英語の授業

ソンケーオさん（10歳）

ラオス語　サバイディー　ສະບາຍດີ　こんにちは

「サバイディー」。両手を合わせてあいさつをします

夢

優しい看護師さんになって、けがや病気で苦しんでいる人たちを助けたいです。でも看護師になるのは難しそうなので、なれるか心配です。一生懸命勉強を頑張ります。

家族

父と母、祖母、６歳の妹、私の５人家族です。かわいい牛や鶏たちも大切な家族です。父の仕事は農業で、キャベツやキュウリ、トマトを育てています。父が大事に育てた野菜を母が市場で売っています。

市場にはお父さんの野菜も並びます

休日

土日は家事や父と母の仕事を手伝います。食事の準備や家の掃除、洗濯、市場で母が野菜を売るのも手伝います。父が育てた野菜を買ってもらえるとちょっとうれしいです。

村のこと

みんな優しくて、家族みたいなところです。家の裏にある山もお気に入りの場所です。不発弾(※)を見つけたことがあって、その時はすごくビックリしました。

※戦争中に落とされて、爆発しないまま残っている爆弾

宝物

お父さんとお母さんです。私を産んでくれて、大切に育ててくれているからです。優しい２人が大好きです。国際女性デーにお母さんに手紙を書いて渡したら、とても喜んでくれてうれしかったです。

ラオスの伝統料理。左端がカオニャオ

食べ物

カオニャオ（ラオスの主食のもち米）とお肉を一緒に食べるのが大好きです。中でも、お母さんと一緒に焼いて食べる焼き鳥が大好物です。

学校

ラオス語と英語の授業が難しくて大変です。毎日おうちに帰ったら復習をしています。最近は算数の勉強がとても楽しいです。前よりもかけ算が速くできるようになりました。

休み時間に体操をします。女子はラオスの民族衣装で伝統的な巻きスカートのシンを着ています

「スワイカン」助け合いの心

日本語で「助け合う」という意味のこの言葉。私がラオスに来て約10か月がたちますが、本当によく耳にする言葉です。

赴任当初、右も左も分からず、言葉もままならない私に、村中の人々が気にかけて声をかけてくれました。市場で買い物をすれば知らない間に見知らぬ村人から値段交渉のコツを教えられ、停電すれば10分おきにろうそくを持ったご近所さんが「大丈夫か？」と現れ、道を一人で歩けばそこかしこから一緒にご飯を食べようと誘われることも。数えればキリがないほどの親切の嵐に、最初は戸惑うことさえありました。

「どうしてこんなに優しくしてくれるの」。不思議に思って、そんな質問をラオス人の同僚にしたことがあります。彼は笑いながら、「僕にも分からない。ただ、誰だって一人では生きていけないだろう。その弱さを知っているだけさ。大事なことはスワイカンだよ」と一言。助け合うことは決して特別なことではなく、ごく自然なこと。ゆったりとした時間の中で、人と人との関わりを大切にしながら生きている彼らと一緒にいると、いつも少し背伸びをして、肩肘を張って生きている自分に気付かされます。

今はまだ助けてもらってばかりの毎日、いつか彼らに恩返しができるように、「スワイカン（助け合い）」と言って一緒に肩を組めるように、これからも活動に励んでいきます。

小学校の先生たちと昼食会。中央が平良さん

平良さんのもう一言

豊かな自然に囲まれたラオスには、魅力的なアウトドアスポットがたくさんあります